

【A部門】

認知症にやさしい 図書館プロジェクト

助成団体

男性介護者の会（マスターズカフェ）



be Orange



活動の様子

| 活動内容

認知症当事者を含む『男性介護者の会』が主体となって運営、企画を行い、定期的な認知症カフェを開催する。

認知症関連書籍や案内物を集約し、市民にとって分かりやすい普及啓発コーナーを設置する。新規ボランティアの募集（仲間づくり）のために認知症サポーター養成講座を開催する。

｜活動実施による効果

(地域への影響や認知症当事者の方の変化など)

認知症当事者3名、家族がマスターとなりカフェを運営。認知症当事者（マスター）が積極的に認知症当事（客）の相談を受けている。

特に、制度を利用できない若年性認知症の方にとって過ごしやすい場になっている。図書館に来られている男性の方が、一人で来店されることが多く見られ、男性が店内に立っていることで、入りやすい雰囲気は自然につくられている。お一人さまから仲間づくりに発展している。ボランティア団体や作業所の出張販売など、お互いに協力しあいカフェのサポーターとなることで、活動の支え合いの輪が広がっている。

介護者家族の会が開催している介護相談窓口の場となり、家族の会メンバーと専門職が協働して相談支援を行なっている。

「認知症にやさしい図書館」の延長が決定し、マスターの活動の意義等、図書館職員全員が理解し、市民に宣伝していくため、図書館職員とマスターたちとの顔の見える関係づくりがはじまった。市の職員が引きこもりの当事者と一緒にカフェに参加し地域共生型のカフェへと発展している。

この活動が阪南市にとどまらず、他市、他県から視察に来られています。

| 助成金の使用実績

助成額：400,000円

物品購入費（図書館）・・・120,000円

（LEDライト・本棚）

物品購入費（カフェ）・・・230,000円

（テーブルクロス、エプロン、暖簾、シール、コースター）

消耗品・・・・・・・・・・50,000円

合計・・・・・・・・・・400,000円